

# ご近所のお医者さん

□  
679  
□

あいばクリニック院長 清水智之さん 一岸和田市

## 聞こえづいづい放置せず

以前に比べて「聞こえづいづい」になったと感じつつ、年を取ったから仕方ないと諦めている方はいらっしゃいませんか？ 諦める前に、一度、補聴器を試してみましよう。

音は耳で聞いていると思われがちですが、実際

は脳で聞いています。

耳が音や言葉

を電気信号に変換して、脳に伝えます。「難聴」は、耳の機能低下により、

脳に伝わる電気信号が減少した状態で

難聴は、耳垢の詰まりや中耳炎など

によって音が伝わりにくい「伝音難聴」

と、加齢にともない聞こえが悪くなる

など、音を感じる部分に問題が生じる

「感音難聴」に分けられます。治療で

きる難聴もありますが、いわゆる「老

人性難聴」は治せるものではありません

によって音が伝わりにくい「伝音難聴」

と、加齢にともない聞こえが悪くなる

## 補聴器 認知症予防にも

ん。

実は、認知症の一番の原因は難聴だ

といわれています。音による刺激が少

ない状態では、脳の萎縮や神経細胞の

弱まりが進むためです。

そこで、加齢による難聴には「補聴

器」をお勧めします。ご自身にあった

補聴器を早めに装着し、認知症を予防

しましょう。装着を恥ずかしがる患者

さんいらっしゃいますが、今は目立

たないものもあります。

難聴の程度やどのくらい困っている

かにもよりますが、聞き間違いが増え

てきた時を一つのきっかけにして、耳

鼻咽喉科を受診しましょう。最近は「集

音器」の広告をよく目にしますが、医

療機器ではないため安全性の保証があ

りません。補聴器のように、使う人に

合わせた調整ができませんので、安易

に選ぶのは避けてください。

補聴器を

つけると音

がすぐに入

ってきます

が、今までの静かな世界に、急に雑音

なども入ってきて不快に感じる方も多

いようです。しかし、脳には「慣れる」

という素晴らしい機能があります。初

めはうるさい生活音も、1カ月ほどで

徐々に気にならなくなります。

そして、音を聞いているのは脳で、

補聴器は音を大きくする機器なので、

ご本人の「聞こえ」という意思が大切

です。積極的に聴覚を使い、認知症を

予防しましょう。(府医師会理事)

